

「歴史の見える丘から見えたもの」

ぼくは、小学五年生。呉で生まれて、呉で育った。

この前、担任の先生が

「呉市や宮原地区のよいところは、どんなところですか？」

とたずねられた。みんなは次のように答えた。

「呉市は戦艦大和のふるさとで、昔から造船が盛んです。」

「灰ヶ峰から見える夜景は、とてもきれいです。」

「宮原から見える夕日も負けてないと思います。」

「宮原は行事もたくさんあって、地域の人も優しいです。」

そこでぼくも発言した。

「呉市が四つの市で『日本遺産』に認定されたのを知っていますか？」
「四つの市って？」

「聞いたことありませんか？昔、軍港のあった呉市、横須賀市、佐世保市、舞鶴市の四つです。四年生のときに行った入船山記念館にある『塔時計』、学校の近くの『歴史の見える丘』この前見学に行った『大和ミュージアム』にある資料や、この宮原地区にある日本で最も古い水道施設も日本遺産に含まれているんです。」

それを聞いていたみんなから歓声が上がった。先生も、
「呉市は日本の中でもすごい『まち』ですよ。充くん、呉市のことをよく知っていますね。」

とほめてくれ、次のように続けた。

「呉市が『日本遺産』に認定されて、呉市を訪れる観光客が増えていることは知っていますか？」

「日本の人たちだけでなく、海外からも呉市を訪れる人たちが増えていると思います。」
その意見を聞いて、ぼくは、

「観光客に呉市のよさをたくさん知ってほしいと思います。呉市のよさを調べて紹介するパンフレットを作るのはどうですか？」
と提案した。クラスのみんなも、「それいいね。」「やろう、やろう。」「などと盛り上がった。」



歴史の見える丘

そんな矢先、横須賀に住んでいるとその麻衣さんから電話があった。呉のおぼあちやんのところへ遊びに来るので、日本遺産を案内してほしいとのことだった。ぼくは喜んで返事をした。

夏休みに入り、麻衣さんが呉にやってきた。ぼくは、まず「歴史の見える丘」に案内した。到着するなり、麻衣さんは

「充くん、ここから見えるドックは、横須賀のドックとよく似ているわ。横須賀の一号ドックは、日本で一番古い西洋式の石造りドックだよ。歴史の見える丘には、ドックの石を使ってつくられた記念塔や記念碑もあるよね。どれかなあ。」

「この碑や塔のことだよね。」

「これこれ。『噫戦艦大和塔』・・・写真で見たのと同じだ！いつもこんなに近くで見ることができて、すごいよね。この近くには、正岡子規の句碑もあるでしょ。」

「えっ。」

「あ、あった。この句は、子規が船から日暮れの休山を見ながらつくった句だよね。」

「そ、そうだね・・・。」

ぼくは歴史の見える丘から見える夕日に、自分のもやもやした気持ちを重ねていた。

帰宅したぼくは、お母さんにその日のできごとを話した。お母さんは、

「これ読んでごらん。」

と言って、呉市の市政だよりを渡してくれた。ページをめくってみると、呉市の日本遺産がシリーズで紹介されており、ちょうど「歴史の見える丘」が紹介されていた。

これらの塔は、鎮守府とともに発展してきた呉の歴史を象徴するとともに、先人の業績を讃えています。また、ここからは戦艦「大和」を建造した旧呉海軍工廠造船部造船船渠の大屋根を間近に見ることができます。ここに立って、軍港から平和産業港湾都市としての道を歩んできた明治以降の呉の歴史に思いをはせてみませんか。(市政だより29年7月号)

気が付けば、ぼくは、これまでの市政だよりを探しては、何冊も何冊も夢中になって読んでいた。

次の日、改めて「歴史の見える丘」に行ってみた。何度となく見てきた呉の港に沈む夕日が、何だかいつもよりも輝いて見えた。



歴史の見える丘からの眺め